

# 「発音 1・2」におけるオンライン授業の実践報告

## —日本人学生ボランティアとの協働学習—

川名恭子

【キーワード】 オンライン授業、日本人学生ボランティア、協働学習、OJAD

### 1. はじめに

2020 年度春学期、新型コロナウイルスの感染拡大により、筆者は神田外語大学留学生別科「発音 1・2」の授業をオンラインで行うこととなった。そこで、事前に大学側が主催する講習会に参加し、YouTube などの動画共有サービスで Zoom（ビデオ会議システム）や Google Classroom（学習管理システム）について自己研鑽を重ねたうえで授業に臨んだ。さらに、対面式とは異なるオンラインによる発音の授業には、どのような工夫が必要であるかも考慮し、授業を組み立てた。

本授業は履修学生が 1 名となったため、クラスメイト同士で行う予定であった発音練習や活動を断念せざるを得なくなった。しかし、コースの途中から日本人学生ボランティアにサポーターとして参加してもらうことにより、学生との協働学習を実現することができた。

本稿では、このような状況のもとで担当した「発音 1・2」における実践報告と学生の振り返りシートおよび日本人学生ボランティアへのアンケートの結果から、今後の課題について検討する。

### 2. 授業概要

#### 2-1 授業形態

「発音 1・2」は、週 1 コマ（90 分）全 13 回の選択科目である。ビデオ会議システムの Zoom を使用し、同期双方向型の授業を実施した。資料や課題のやり取り等は学習管理システム（LMS）の Google Classroom で行った。

#### 2-2 履修学生および日本人学生ボランティア

2 レベルのインドネシア出身の学生 1 名で、今学期に入学したが、すでに来日済みであったため、日本国内で受講した。さらに、第 6 回目の授業からはインドネシア語を専攻する日本人学生 1 名がボランティアとして参加した。

#### 2-3 授業目標

本授業の目標は2つあり、①日本語の音、リズム、アクセント、イントネーションについて学び、②いろいろな練習方法やツールを使って苦手な発音を直すことである。

## 2-4 評価

本授業では、アフレコの発表をすることが最終課題であるが、授業参加度や課題の内容・提出状況も含め、総合的に評価を行った。

- ①授業参加度 (20%)          出席と授業への取り組み・態度
- ②課題 (50%)                毎週授業で提示される課題
- ③最終課題 (30%)          アフレコの発表

## 3. 授業実践

### 3-1 授業スケジュール

本授業の目標に沿って設計した授業スケジュールの内容および課題については表1に示す通りである<sup>(1)</sup>。

表1 2020年度春学期「発音1・2」授業スケジュール

回	日	授業内容・活動など	課題
1	4月29日	ガイダンス、50音	課題①
2	5月06日	日本語の音	課題②
3	5月13日	拍とリズム	課題③
4	5月20日	長音(ー)	課題④
5	5月27日	促音(っ)	課題⑤
6	6月03日	撥音(ん)	課題⑥
7	6月10日	気をつけたほうがいい発音 (濁音・半濁音、拗音、h+母音) 早口言葉	課題⑦
8	6月17日	アクセント(1)	課題⑧
9	6月24日	アクセント(2)	課題⑨

10	7月01日	イントネーション	課題⑩
11	7月08日	区切り・ポーズ、プロミネンス	課題⑪
12	7月15日	学生が欠席したため、日本人学生ボランティアと最終課題について打ち合わせをした (予定していた内容：シャドーイング、アフレコ)	課題⑫ (欠席のため未提示)
13	7月22日	シャドーイング、アフレコ 最終課題、評価のFB、振り返りシート、アンケート	

### 3-2 ガイダンス（第1回目）

第1回目の授業では、自己紹介やスケジュール確認のほか、日本語の50音についてワークシートをもとに発音練習を行った。授業終了時には、授業で扱ったワークシートを読み上げ、録音したものを提出させるという課題を提示した。このワークシートは、前任者の資料、赤木・内田・古市（2010）の『毎日練習！リズムで身につく日本語の発音』、木下・中川（2019）の『ひとりでも学べる日本語の発音 OJAD で調べて Praat で確かめよう』、戸田（編著）・大久・神山・小西・福井（2012）の『シャドーイングで日本語発音レッスン』、中川・中村（2010）の『初級文型でできる にほんご発音アクティビティ』、宮本・大崎（2011）の『5分でできる にほんご 音の聞きわけトレーニング』を参考にし、作成したものである。以降、同様の課題を毎週提示し、次の授業でフィードバックを行っていた。その方法は、提出されたデータを事前に再生し、記入しておいたコメントを見せながら学生と一緒に聴き、正しく発音できなかったところだけ再度一緒に練習するというものであった。

### 3-3 第2～5回目の授業

第2回目から第5回目までは、学生1名のみでの参加であった。授業の流れとしては、以下の通りである。

1. 【Zoom メインルーム：40分程度】
  - ・課題のフィードバック
  - ・ワークシートで学習内容の説明と発音指導
2. 【Zoom 映像・音声オフ：30分程度】
  - ・学生はワークシートをもとに一人で発音練習
3. 【Zoom メインルーム：20分程度】
  - ・学生はワークシートの練習内容を発音し、教師のフィードバックを受ける
  - ・質疑応答、課題の内容・提出期限の提示など

第2回目の授業内容は、日本語の音（母音・子音）についてで、課題もそのワークシートの内容を読み上げ、録音するというものであった。それ以外に、自己紹介文を書かせ、

スピーチとして録音し、提出するという課題も提示した。これは、コース修了時に同じスピーチをし、自身の発音がどのように変化したか意識化させる目的で行った。

第3回目の授業では、赤木ほか（2010）を参考に文字の下に記号（「●」など）を付けることで拍とリズムを視覚化した。また、木下・中川（2019）が紹介する手拍子で身体を使った発音練習を行った。他にも指や足踏みなどで拍数を数える方法もあるが、オンラインの授業では、画面からよく見え、音も聞こえる方が正しくできているかどうか確認しやすいと思い、採用した。この手拍子で拍を数えながら発音する練習は、第7回目の授業まで続けた。

### 3-4 第6～12回目の授業

第6回目の授業からは、インドネシア語学科の日本人学生がボランティアとして参加したため、授業の流れは以下の通りとなった。

1. 【Zoom メインルーム：40分程度】
  - ・課題のフィードバック
  - ・ワークシートで学習内容の説明と発音指導
2. 【Zoom ブレイクアウトルーム：30分程度】
  - ・学生は日本人学生ボランティアと一緒にワークシートをもとに発音練習
3. 【Zoom メインルーム：20分程度】
  - ・学生はワークシートの練習内容を発音し、教師のフィードバックを受ける
  - ・質疑応答、課題の内容・提出期限の提示など

第6回目と第7回目の授業では、引き続き文字の下に拍の記号を入れ、手拍子で拍とリズムを意識した発音練習を行った。日本人学生ボランティアにも手拍子の方法を教え、ブレイクアウトルームで学生と一緒に練習ができるようにした。

第8回目から第10回目の授業では、OJAD（Online Japanese Accent Dictionary：オンライン日本語アクセント辞書）を使用し、単語や文章にアクセントやイントネーションのマークを付け、視覚化したり、音声化したりする方法を紹介した。

第11回目の授業では、区切り・ポーズやプロミネンスを意識させるため、『つたえるはつおん 気持ちをきちんとつたえるための発音が学べる日本語学習サイト』のスラッシュリーディングや強調についての動画を視聴した。その際、第2回目の授業で書かせた自己紹介文にスラッシュおよびアクセント・イントネーションのマークを付け、スピーチしたものを課題⑩として録音し、提出させた。これは、今回録音したものと第2回目に録音したものとを比較し、学生に自身の発音についてどのように変化したか意識化させるためである。

第12回目の授業については、課題⑩（2つの自己紹介スピーチの比較）のフィードバック、シャドーイングと最終課題（アフレコ）の評価基準提示および発表準備を予定していた。しかし、学生が欠席したため、日本人学生ボランティアと最終課題について打ち合わせをした。また、課題が授業内容の復習を兼ねているため、課題⑫の提示はしなかった。

### 3-5 第13回目（最終日）の授業

第13回目（最終日）の授業では、学生が欠席した第12回目の授業の内容も扱った。まず、課題②と⑩の自己紹介スピーチを比較し、自身の発音の変化を意識化させるフィードバックを行った。その後、ワークシートでシャドーイングとアフレコの説明および練習をした。また、最終課題について説明し、以下のような評価基準を提示した。

表2 最終課題（アフレコ発表）の評価基準

1. 発音 ①正しい発音 ②正しいアクセント ③正しいイントネーション
2. 声 ④大きい声で話しています ⑤声がキャラクターに合っています ⑥声で気持ちを表現しています
3. 話し方 ⑦はっきり話しています ⑧キャラクターと同じスピードで話しています ⑨つかえないで話しています

最終課題であるアフレコには、Youtubeで無料公開されているディズニー公式『くまのプーさん ちいさなぼうけん ショートアニメ 不思議な足あと（2分33秒）』を使用した。教師がナレーションを担当し、学生と日本人学生ボランティアが役を決め、台本をもとに3回練習し、最終課題としてアフレコの発表を行った。学生が振り返りシートおよび別科の授業アンケートに記入している間に、最終課題の評価およびコメントの記入を行い、授業の最後に学生にフィードバックした。

### 3-6 振り返りシートの分析と考察

振り返りシートは、第13回目の授業内で記入させた。質問項目については、自己の学びを振り返り、本授業の目標を再認識できるよう設定されており、以下の通り示す<sup>2)</sup>。

1. 目標①「日本語の音、リズム、アクセント、イントネーションについて学ぶ」について、「できるようになったこと・新しく勉強したこと」、また「よくわからなかったこと・もっと勉強したかったこと」を書いてください。
  - 1) 日本語の音について
  - 2) リズムについて

- 3) アクセントについて
  - 4) イントネーションについて
2. 目標②「いろいろな練習方法やツールを使って苦手な発音を直す」について、書いてください。
    - 1) いろいろな練習方法やツールがありましたが、どれがよかったですか。
    - 2) まだ苦手な発音がありますか。どうしてそう思いましたか。
  3. この授業の前と後で、発音について考えが変わりましたか。
  4. これからも発音の勉強を続けたいですか。
  5. オンラインの授業はどうでしたか。

まず、目標①についての回答を分析し、考察する。日本語の音については明確に発音できるようになった、リズムについては型があることを学び、手拍子でリズムを取る練習方法は非常に楽しかったと回答している。また、アクセントについては、日本語の音やリズムより少々難しく感じたこと、特に4つの型のうち、尾高型と平板型が似ていると指摘している。イントネーションについても、山が4種類あることが難しかったと述べていることから、学生が発音の理論をしっかりと理解したことで、自身の発音を分析し、弱点を認識できていることがわかる。

次に、目標②の練習方法やツールについては、手拍子がシンプルでわかりやすく、一番役に立ったと回答している。拍を数える方法は様々あるが、オンラインでの授業のため、画面上および音声で実施状況を確認できる手拍子を採用したのは効果的だったようだ。しかしながら、まだ苦手な発音があるかどうか、また、どうしてそう思うかについては、日本語を話す練習をあまりしていないため、アクセントとイントネーションがまだできていないかも知れないと述べている。この点については、課題②と⑩の自己紹介スピーチをフィードバックしている際にも語られていたが、教師も日本人学生ボランティアも学生の発音の改善に驚き、自信を持つようアドバイスをしている。

さらに、この授業の前と後で、発音について考えが変わったかどうかに関しては、以前は多くの日本人の話すスピードが速いため、発音をあまり重視してこなかった。しかし、ゆっくり話す時に発音が間違っていたりすると意味が違ったりすることがわかり、コース修了後はもっと発音に気を付けたいと思うようになったと述べている。これは、アクセントの授業時に「箸・橋・端」などの例で日本語の同音異義語の多さに気づいたためだと思われる。

そして、これからも発音の勉強を続けたいかどうかについては、日本語を話す機会がほとんどない環境でどのようにしたら良いかわからないと回答している。第8～10回目の授業でアクセントやイントネーションについて指導する際、OJADを使って練習したが、3回程度であったせいか、十分使いこなせていたとは言い難いようだ。

最後に、オンライン授業については、先生や友達に会えなかったのは残念だったが、このクラスが本当に楽しかったと締めくくっている。

### 3-7 日本人学生ボランティアへのアンケートの分析と考察

授業後、日本人学生ボランティアへのアンケートは、以下の質問内容に自由記述式で回答をお願いした。

1. この授業に参加した理由
2. 留学生との日本語学習および交流を通して学んだことや感じたこと
3. 今後の留学生との交流について考えていること
4. オンラインでの授業について、感想や意見

まず、この授業に参加した理由として、日本語を勉強している外国人と交流してみたいと思ったことを挙げている。特に、留学生から、なぜ日本語を勉強しようと思ったのか、日本をどう思っているのか、日本語のどの部分が難しく、魅力的なのかを知ることができるのではないかと考えたと回答している。

学生との日本語学習および交流を通して学んだことや感じたことについては、インドネシア語を専攻しているので、インドネシアの留学生と会話できたことが大変嬉しく、ブレイクアウトセッションの際に、日本語でインドネシア語について様々なことを教えてもらったと述べている。

さらに、今後もたくさんの留学生と交流して、自分自身の物事の視点を広げていきたいが、その理由として、交流を通して日本人が気づかない日本語の難しい点（数字の読み方など）を知ることができたことを挙げている。

最後に、オンライン授業に関しては、良かった点として、ブレイクアウトセッションで周りのことを気にせず会話ができたと、悪かった点として、相手と直接会話ができず、距離を感じたことを述べている。また、アフレコの際に画面が止まってしまうたり、相手の声が遅く聞こえたりしたので、オンラインで行うなら物語の朗読の方が良いと思ったという提案もあった。

上記の回答から、日本人学生ボランティアが、専攻しているインドネシア語だけでなく、自身の母語である日本語についても学びたいという気持ちで積極的に協働学習や活動に取り組み、授業サポーターとして大変有意義なボランティア活動を行えたことがうかがえる。この経験が、今後も留学生と交流したいという意欲につながったようである。

## 4. まとめと今後の課題

以上、2020年度春学期、新型コロナウイルスの感染拡大により、オンラインで実施された神田外語大学留学生別科「発音1・2」の授業実践報告、学生の振り返りシートと日本人学生ボランティアへのアンケートの分析および考察を行った。本授業の特徴は、オンラインで授業を実施したことと、日本人学生ボランティアとの協働学習であったことの2つがあげられる。

オンラインでの発音の授業であっても、日本語の音、リズム、アクセント、イントネーションの指導については、コース開始時および修了時に学生に録音させた自己紹介スピーチの比較で発音の改善がみられたことからわかるように、目標を達成できたと感じてい

る。また、課題についても、対面式の場合でも Google Classroom を使用し、データでのやり取りを行う予定であったため、特に問題はなかった。履修学生が1名になったことについては、予定していたクラスメイト同士の活動ができなくなったのは大変残念であった。しかし、日本人学生ボランティアに参加してもらうことにより、協働学習を通してお互いに学び合う機会や、交流の場を提供できたことについては、期待以上の効果があったと思う。

今後の課題としては、学生がコース修了後も発音について勉強していきたいが、母国で一人で続けていけるかどうか疑問を抱いていることについて、OJAD のような自律学習用のツールを早期の段階で導入し、使いこなせるようになるまで積極的に活用することを今後の課題として検討したい。

#### 注

- (1) 対象学生が初級レベルのため、全ての資料にルビを付けているが、本稿の表ではルビを削除している。
- (2) 振り返りシートは英語での回答も許可している。そのため、筆者が日本語に翻訳し、引用した。

#### 参考文献

- (1) 赤木浩文・内田紀子・古市由美子 (2010) 『毎日練習！リズムで身につく日本語の発音』スリーエーネットワーク
- (2) 木下直子・中川千恵子 (2019) 『ひとりでも学べる日本語の発音 OJAD で調べて Praat で確かめよう』ひつじ書房
- (3) 戸田貴子 (編著)・大久保雅子・神山由紀子・小西玲子・福井貴代美 (2012) 『シャドーイングで日本語発音レッスン』スリーエーネットワーク
- (4) 中川千恵子・中村則子 (2010) 『初級文型のできる にほんご発音アクティビティ』アスク  
宮本典以子・大崎伸城 (2011) 『5分のできる にほんご 音の聞きわけトレーニング』スリーエーネットワーク
- (5) つたえるはつおん制作チーム (2015) 『つたえるはつおん 気持ちをきちんとつたえるための発音が学べる日本語学習サイト』 <<http://www.japanese-pronunciation.com/>>
- (6) ディズニー公式「くまのプーさん ちいさなぼうけん ショートアニメ 不思議な足あと」 <<https://www.youtube.com/watch?v=gc8qgkuA3bc&feature=youtu.be>>
- (7) OJAD (Online Japanese Accent Dictionary) <<http://www.gavo.t.u-tokyo.ac.jp/ojad/>>
- (8) Google Classroom <[https://edu.google.com/intl/ja/products/classroom/?modal\\_active=none](https://edu.google.com/intl/ja/products/classroom/?modal_active=none)>
- (9) Zoom Video Communications <<https://zoom.us/>>